

研究紀要発刊に際して

石川県立大学は、設立 14 年目になりますが、新しい展開を図るべき時期と考え、アクションプランの名の基、様々な改革に取り組んでおります。そのような中で、大学独自の研究紀要を発刊することは、大変喜ばしいことであります。

さて、現在の社会情勢は、経済再生を最優先事項として動いております。大学に対してもその影響は強くあり、経済的に役立つ研究、すぐに会社で役立つ学生が求められております。

しかしながら、大学は、本来学問をするところであります。学問の根幹は、真理の探究と新しい事象の発見であり、それらを遂行するための研究が大学の最も大事な使命であります。これと並んで切り離せない大事な使命として教育があります。知識と応用力を備えた、闊達な精神を持つ学生を育て、社会に送り出すことが重要であります。このような学生の教育は、基本的に研究を通じて行われるべきものと考えます。人類のために役に立つ真理・原理を明らかにすることが、大学本来の使命であり、それを通じて学生を育て、知の象徴として敬愛されることが、大学のあるべき姿であります。

石川県立大学は、農学系大学であり、その研究目的は、より良い農産物をより多く作ること、あるいはこれらをより良く加工すること、さらにはそのためのよりよい環境づくりにあると思います。そのため、基礎的研究よりは応用に近い研究が行われることは、当然のことです。しかし、真理と原理の探究を行うという高邁な精神を大学は失ってはならないと考えております。

教育・研究の中心は当然教員であります。教員が自分の夢を持って、その実現のため、研究においても教育においても、自分がやりたいことを力いっぱいやって、それを世に問うことが望ましいと思います。学生は先生方のそんな姿を見ながらともに学び、育ちます。これら教育や研究の評価は、大学の外の社会からなされるものでありますが、大学がどんな教育・研究をしているかは、なかなか外からは見えにくいし、その成果が現われるには時間を要します。今回の研究紀要の発刊が、本学の活動をより良く大学の外に公知し、石川県立大学の評価の礎となることに期待するところであります。

平成 30 年 3 月

学 長

熊 谷 英 彦